
再会・・・そして出会い

菜緒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

再会・・・そして出会い

【著者名】

NO634A

【あらすじ】

偶然的に再会した美咲と瑞希。いい雰囲気だった二人の心が徐々にはなれていく。そして、新一と美咲の関係は・・・どうなる？

菜緒

第一話 再会

第一話～再会～

暖かい日差しの中、やわらかな風にふかれ、桜の花びらが気持ちよさそうにふつてぐる。

ここは、とある横浜の小学校。 その廊下を先生と一緒に歩く一人の少女がいた。

そして、『6年2組』というふだのかかった教室に足をふみいれる。「ガラララ・・・ ハイ、みんな一席について！今日は転校生を紹介します。」

「え？ ？ 転校生！？」

「うそうそーどんな子？」

「可愛い子だといこなあ！」

そんな生徒たちの気持ちのよそにその転校生はひどく緊張していた。

【ああ・・・ドキドキするなあ。友達できるかなあ・・・】

「はっ はじまして、若草小学校から来ました。富本美咲です。よろしくお願ひします。」

その少女は少し控え目に自己紹介をする、ほかの生徒は、みな美咲に見とれていた。

それもそうだろう。美咲はロングヘアの一重に、雪のように白い肌なのだからだ。

そして、田を引くほどの美人。これに見とれない人はいないだろう。

でも一人だけ、見とれずに考えこむ少年がいた。その名は水野谷瑞希。

【富本美咲？あれ・・・たしかこの名前どつかで・・・えつと一
どこだつけ？】

「ハイ、じゃあ富本さんの席は水野谷くんの隣。そろそろあそこね、
じゃ授業始めるよ。」

その担任のかけ声とともに、美咲の頭には何かが引っかかった。

【えつ？水野谷瑞希！？待つてよ・・・この名前どいかにいたよう
な気がするなあ・・・】

こいつして美咲と瑞希はそれぞれ同じことで悩んでいた。

授業中・・・日本史の教科書には田もくれずに美咲は窓の外を眺めていた。

そして、瑞希は、美咲の方をチラチラ見ては、考えこんでいる。

【富本美咲、富本美咲、富本・・・ああーだれだつたかな?】

【水野谷・・・えーっとえーっと・・・・・あつ!思い出した!】

キーンゴーンカーンゴーン・・・

美咲のひらめきとともに授業終了のチャイムが鳴った。

美咲は早速、瑞希に歩み寄り、

「ね、ねえ? 瑞希 くんだよね? あたし、美咲。覚えてる? ホラ、若草小学校で同じクラス だつたよね?」

「えつ・・・あ、そうか富本って そudadつたんだ、どつかで会つたことあるなあつて思つてた

んだよなあ。」

そう、この二人は小学校が同じだつたのだ。でも、それだけではない。2人はお互^いのことが

大好きでよく小さいころから一緒に遊んでいた。そして、遊ぶたんびに、

「ねえ? 瑞希くん! 大きくなつたりせつたあいに結婚しようつね! -!」

「うん。もちろんだよ美咲ちゃん!」

と言い合っていたのだ。でも、瑞希は父の転勤で先に隣の市に越してきた。

そしてそこへ偶然的に美咲も越してきた。という訳なのである。

「久しぶりだねっ！えっとお5年ぶりくらいかなあ？でもなんか、かつによくなつた？

そんな気する。」

性格が素直な美咲は思いをありのままにつちあける。それに瑞希も

「ああ、そうだな。1年の時越してきたから、ちょうど5年ぶりだな。でも、何だおまえ！」

全然変わつてねーじやんかよお。」

とは言いながらも、内心ではひどくおどろいていた。小さいころから可愛かった美咲が

こんなに美人になつているとは予想もつかなかつたのだ。

一方美咲もずいぶんと大人びた瑞希に目をひかれていた。

【瑞希くん本当に大人っぽくなつたなあ・・・これだつたらモテモテなんじゃないの？】

その時

「ちよつとやこのあなた！わたしたちの瑞希様に何をしてるの？」

「えつー？瑞希さまあ？」

突然、約30人を引きつれた一人の少女がこちらに歩み寄ってきた。
そして、するどい目で美咲

をにらみながら

「あら、どこのだれかは知らないけれど、瑞希様と一緒にだけ話す
なんていい度胸してるじゃな

い。」のあたし、大城花菜実の前でそんなことしていいと思つてゐ
のおー？」

と言い美咲を瑞希の前でつき飛ばした。

「いたたた、何もつき飛ばさなくたっていいじゃない！それ以前に、
あなただれ？」

美咲はかまわず反抗する。こう見えて実は強い度胸の持ち主なのだ。

「あら！あたしを知らないなんていつたいどこの何様のつもり？
あ、でもあなた転校生よね

?なら知らなくつても無理ないわ！あたしはこの学校の生徒会長、
大城花菜実ですわっ！おぼえ

ておきなさいよっー！あと、瑞希様とふたりつきりではなすなんて
もう絶対にするんじやないわ

よつー

と言い残し、ツカツカと歩き去つていった。美咲は瑞希に向き直り、「やつぱり、モテるのねーその顔じゃあ無理ないけど・・・でもあるんのが生徒会長だなんて

この学校どうなってるの?..」

瑞希はつかれた顔をして、

「つたく毎日休み時間はくるんだぜ、アイシラ。勝手にファンクラブとか作りやがって・・・」

生徒会長選挙の時にアイシ、女子ほとんど味方に付けて投票させたんだ。だからこんな結果

つてわけさ。まったくまいっちやうよ」

その日の放課後

帰り仕度を終えた美咲が帰るのになると、後ろから瑞希が

「なあ、美咲!道、あんまよくわかんねーだろ?今日は送つてつてやるよ。住所、言つてみ?」

美咲は瑞希に美咲と呼ばれ一瞬ドキッとしたがあらたまつて、

「あー、ありがとーやさしいのね。あたしの住所は花坂町、3丁目の2番地、12の赤い屋根の

家だよー。」

「え？ そこってもしかして、隣に青い屋根の家があるところ？」

「あ、そういうー知ってるの？」

「いや、知ってるって言つか・・・やー、オレンちゃんだけ・・・

「

そう、美咲の家の隣は瑞希の家だったのだ。

「あ、だったら毎日一緒に通えるじゃない！ そりこえれば引っ越しの挨拶、今日の予定だったから

まだ知らなかつたのよね。じゃ、行こつか！」

その日の夜

美咲の家族、父、母、美咲、妹は水野谷家に挨拶に言つた。久しぶりだったので、父同士、

母同士、妹弟どうしでとても話が盛り上がり、もちろん美咲と瑞希も楽しいひとときを

過ごした。でも、これから起る恐ろしい出来事は、今は誰も予想できていなかつた。

第一話 再会（後書き）

この作品、第一話はとっても軽やかにテンポよく作れました。美咲と瑞希が再会し、変わった生徒会長が現れ、家も隣同士になった二人が、これからどうなるのか・・・第一話ではタイトルにあるようく美咲に『出会い』があります。どうぞ、おたのしみに！ 感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0634a/>

再会・・・そして出会い

2011年2月1日15時20分発行